

令和4年2月

はたちの献血街頭キャンペーン

去る1月12日（水）に県庁前県民広場において「はたちの献血」街頭キャンペーンが開催されました。

例年は、赤十字奉仕団からも大勢参加して行うところですが、今年度はコロナ禍ということもあり、人数を制限しての開催となりました。



挨拶する島袋匠さん



街頭キャンペーン会場の様子

式典では、沖縄国際大学3年次で沖縄県学生献血推進協議会会長の島袋匠さんが、「沖縄県では10年前と比べて20代までの献血者が39%も減少している。安心して治療が受けられるよう新成人の皆さんの協力が必要」と新成人へ向けてのメッセージを伝えました。

コロナ第6波 献血協力にブレーキ



献血会場の様子

年明け早々、県内の新型コロナウイルス感染者数は一気に増加し、年末12月27日には5名であった新規感染者数は1月15日には過去最高の1,829名を記録しました。

同時に、感染者数の増加により企業献血のキャンセルが相次ぎ、1月末時点で18台の献血バスの稼働が中止となりました。

そのような中、陸上自衛隊那覇駐屯地は、県赤十字血液センターの臨時要請を受け、1月18日に献血バスの受入れを承諾。12月に2日間献血実施したにも関わらず、多くの隊員が献血に協力しました。

血液センターの担当者は「献血は不要不急には当たらない」とし、県民へ献血の協力を呼びかけました。



献血協力する自衛隊隊員